

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400365		
法人名	特定非営利活動法人 ありがとう		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	北海道紋別郡遠軽町西町2丁目1番地218		
自己評価作成日	平成26年2月20日	評価結果市町村受理日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0175400365

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠軽町西町地区の自然豊かな環境に立地するグループホーム ありがとうは平屋建て2ユニットになっています。職員は理念にある「安心して、自由に、主人公として楽しく暮らせる」を日々の介護の基本として利用者のペースに合わせた介護を心がけ、その人らしく笑って貰えるケアを追求し実践に努めています。施設長は毎日事業所に出向き利用者、職員とのコミュニケーションに努める中で利用者や職員の状況を把握し、利用者の安心した生活に向けた職員体制の確保やリフトバス、車いす対応の体重計を備えています。又、職員の資格取得を後押しするなど職員の働きやすい環境作りに尽力しています。職員教育の一環として内部研修を定期的開催すると共に、利用者一人ひとりに職員誰でも適切なサービスが提供できるようにとユニット間の職員を入れ替えたり、出勤時には必ず記録等の確認を充実させ、きめ細やかな対応が出来るようにと取り組んでいます。職員は今年度外部評価の際に作成する自己評価を振り返りの機会として取り組み、事業運営の理解やサービスの質の向上に活かしています。一日を通して穏やかな雰囲気、居間には利用者手作りのカレンダーが飾られ、ゆったりと寛げる空間になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念など見えるところに展示し、常に見聞かしています。	理念を居間や事務所・休憩室等、目に付きやすい所に掲示し、意識化を図ると共に日々の介護の基本とし記録の確認をサブタイトルに掲げ実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し、地域の方との交流もあります。野菜、衣類など持参してくださる方もいます。	町の行事に出掛けたり、地域住民とは日常的に触れ合う機会が多く、交流を深めています。週1回のお話ボランティアの来訪は利用者に元気をもたせています。又、地域の方からの相談も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の申し込み、相談の連絡などの問い合わせが年々増えている状態です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会合を開き、情報の交換、ご意見を頂いています。	2ヶ月に1度、町保健福祉課職員、包括支援センター職員、家族代表等の出席を得て開催し、状況報告・活動報告・事故報告等意見交換を行い、運営に反映するよう努めています。	その都度地域住民に参加が得られるよう声かけはしています。地域の理解と支援を得るための機会として今後も家族を含め多くの方に参加して貰えるよう働きかけ、災害時の協力体制の構築にも役立てることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の情報、状態を報告し、相談等をしています。	行政に施設長が日常的に出向き、意見交換やアドバイスを得る等でサービス向上に反映するよう努めています。運営推進会議で事業所の実情を伝えながら協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当然にして、理解し介護に当たっています。	身体拘束廃止の基本方針を事務所や休憩室に掲示し、職員の意識化を図ると共に内部研修を通じて正しく理解をし、禁止の対象となる行為は行わない介護をしています。気になる言葉づかい等はその都度注意を促し周知に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で資料等を作成配布し、知識を身に付ける様にしています。又、スタッフ同士互いに注意を促し防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止法と同様、内部研修での資料で学び、必要に応じて対応するようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約をする際には、時間を十分に取って説明させて頂いています。又、書面での報告もさせて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、おたより配布が少なく申し訳ないことをしてしまいました。ご家族の意見要望などは、来所して頂いた際にお聞きし反映するようにしました。	家族の来訪時や電話で積極的に話しかけ、何でも言って貰えるよう努め、家族に安心感を持っていただく為のきめ細かな報告、連絡を行っています。来年度お便りの配布を予定しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、スタッフとは会話する時間を設け、相談、意見を聞くように努めています。	施設長は常に話し合う機会を設け、日々のケアや業務の改善に繋げています。職員の過半数以上が介護福祉士の資格を取得しており、更なる技術の向上を目指しています。担当職員は利用者本人にとって一番の理解者になれるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を十分に把握し、勤務体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士を目指すスタッフには、定期的に資料配布、講習会への参加など学ぶ機会を設けました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域における研修会に参加し、多くの方々との交流できるような機会を作りました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との面談の際は、表情、行動などに気を付け十分な時間をかけて対応するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、利用者の情報を伺い、又、要望等を出来るだけ実現するように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画プランを基に、介護にあたっています。日々の生活の中で不足しているサービスがあれば、その都度追加しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況を理解し、仕事として介護するのではなく、一緒に協力しながら生活するように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の要望を良く聞き、ご家族に報告を怠らず互いに協力していくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くの方に来所して頂けるような環境を作るようにし、外出も利用者が懐かしく思われる場所に出掛ける様にしています。	知人や友人の訪問を歓迎したり、家族の協力を得ながら馴染みの美容室へ出掛ける等、利用者のこれまでの生活継続に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は、互いに行き来し行事なども一緒に行い関わりを持つようにしています。又、スタッフが潤滑油になり会話を楽しむように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談などをうけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方々が出来ること、又希望されていることを計画プランに盛り込み、安心して生活できるように努めています。	アセスメントの活用と利用者との日々の会話や様子、家族の情報等から思いを汲み取り、安心して過ごせるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に記録した情報を大切に、安心して生活して頂くようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を記録に残し、体調に応じて生活するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	其々の立場から話を聞き、多くの話し合いの機会も設け、計画をたてています。	利用者への適切なサービス提供のため、担当制を取っています。担当職員によるモニタリング、本人も参加する担当者会議を通じて希望・要望を把握し、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録などを参考に、日々の変化に気を付け相談し対応するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其々の状況を十分に把握し、その時々に応じて出来る限りの相談に応じる様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設は自然豊かな環境に建てられていますので、初詣、花見など周辺を散策したりし生活しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自の受診予定を組み、家族の協力のもと安心して受診出来る様にあたっています。	受診予定表を作成し、スタッフの確保等配慮しています。家族受診時にホームでの様子を手紙でお知らせしたり、スタッフも同行し説明する等適切な医療が受けられるよう支援しています。また、週1回看護職員による健康管理も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来訪して頂く看護師には、利用者の情報を共有してもらうように、記録も残すようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態、病状など情報を開示しています。家族、病医院とは入院中でも連絡を取り情報を共有するようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点から、利用者の変化に応じて其のたびごとに、説明させて頂きご理解して頂いています。	重度化や終末期における対応については、利用開始時に家族に説明し、同意書を作成しています。現在は医療体制が整っておらず、取り組みは難しい状況となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、常に身近に置き対応に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法を確認し非常事態の際には、直ぐに行動できるようにしています。	年2回消防署立会のもと、夜間想定や職員への連絡、利用者と共に消火器訓練等実施しています。11月の訓練時には、防災対策の見直しで器具等の用途について勉強し再確認する事が出来、安全対策に努めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々には、自由に生活できるように心がけていますが、見守りが必要な方には、スタッフと共に行動して頂いています。又、利用者の事を十分理解するように情報を見聞きするようにしているが、まだまだ、不足しているような状況でもあります。	職員は常に利用者のその人らしい尊厳を大切に言葉かけや対応に努めています。パット類も人の目に触れないようカーテン等で隠すなど工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんなに小さな行動に対しても注意を払い、利用者の方が自分で選択できるように接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者の方々の表情などを注意深く確認させて頂き、その日1日を安心して過ごせるように声をかける様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔にして頂くために支援し、2か月に1度美容師にお願いし、来所して頂いています。利用者の方によっては、なじみの美容室に出掛ける方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立によっては、利用者と共に料理をしたりしています。後かたづけも一緒にされています。	ホームの家庭菜園で育てた旬の野菜を食事に取り入れており、皆で餃子を作ったり、茶碗拭きや野菜の皮むき、配膳準備等を職員と一緒に楽しく食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の状態を記録に記入し、不足した際は補足したりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っています。介助の必要な方には、手助けをして差し上げています。しかし、利用者の歯の状態をスタッフ全員が把握仕切れていないこともあります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援とまでは行きませんが、常に声を掛けをし、習慣づけるようにしています。	排泄チェック表に記入してパターンを把握し、利用者に応じて声かけを行いトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材、飲料水、運動など個人の体調に合わせて予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるようになっています。利用者によっては、午前中から入浴して頂きゆっくり休んで頂くこともあります。	利用者のその日の体調や希望を確認し、週2～3回は入浴できるよう努めています。今年度リフトバスを購入し、利用者も安心して入浴出来、職員の負担も軽減されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調によっては、起床も遅くしたり、蒲団を暖めたりして休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋等を残し、いつでも確認出来る様にしています。又、担当スタッフを置き利用者のことを把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることはして頂き、季節における行事にも参加して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自の必要な物は、買い物に出かけるように声をかけていますが、外出することを楽しみにする方々が少なくなってきました。声掛けの工夫をしなくてはいけないと思っています。	天気の良い日には、近隣を散歩したり買い物やドライブに出掛けています。ホームの家庭菜園のお世話をする等、戸外で楽しめるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚がなくなっている方々が多くなってきましたが、生活必需品など一緒に購入するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日のように電話する方もおられますし、手紙を書いていられる方もいますので協力させていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度計、加湿器など設置していますが、椅子など移動するときの音、スタッフの声、足音などに注意することも必要かと思えます。	ユニットは別々に建築されており、間取り等はそれぞれ造りが違いどちらも広くゆったりとした空間になっています。居心地よく過ごせる工夫がされ、ユニット毎に暖房機器を電気・灯油と変えており災害等にも備えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで隣同士で仲良く話したり、自室で本を読んだり日記を書いたりして、過ごされている方もいられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具などを入居の際に、持参されています。利用者の変化によっては、模様替えなどもすることもあります。	居室には利用者の好みや馴染みのタンス・ベッド・椅子等を持ち込み、落ち着く空間になるよう心掛けています。また、転倒防止のカーペットを敷くなど安全面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、利用者の方が迷ったり、事故がおきない様に物の配置、場所の明記などして安全に生活出来る様にしています。		